

hp UPS (無停電電源装置) T1000 XRモデル インストール インストラクション



インストールを開始する前に
必ずこの説明をお読みください。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品に対する保証については、当該製品に付属の限定保証書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。

本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。

本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

HP UPS (無停電電源装置) T1000 XRモデル
インストール インストラクション

初版 (2002年10月)
製品番号 314703-191



314703-191

概要

このインストール インストラクションでは、T1000 XRモデルUPS (無停電電源装置) のインストール手順について説明します。UPSの詳細については、このキットに同梱の印刷されたUPSのユーザガイドを参照してください。

注: このユニットで拡張ランタイム モジュール (ERM) を使用する場合は、24V T1000 XR ERM (製品番号 218967-B21) を取り付けてください。詳細については、パワー プロダクト ドキュメンテーションCDに収録されている『hp UPS T1000 XRモデル拡張ランタイム モジュール インストール インストラクション』を参照してください。

安全に使用していただくために

同梱の『安全に使用していただくために』をよく読んでから、製品のインストールを開始してください。



警告: 高電圧による感電を防止するために、オプションのインストール、この製品の定期点検および保守については、AC電源製品の取り扱い手順、注意事項、および危険性を熟知している専門の担当者が行ってください。



警告: 漏電による感電を防止するために、次の点に注意してください。

- 商用電源から切り離されているUPSは動作させないでください。
- UPSを商用電源から切り離す前に、保護されている装置をUPSから切り離してください。
- バッテリーをテストする場合は、UPSをコンセントから外さずに、テスト/アラーム リセット ボタンを使用してください。UPSの操作の詳細については、UPSのユーザ ガイドを参照してください。

規定準拠識別番号

規定に準拠していることの証明と識別のために、UPSモデルには、シリーズ番号が割り当てられています。このUPSを識別できる規定準拠ラベルは、UPS装置の背面に貼付されています。T1000 XRモデルの認定情報を請求する場合は、シリーズ番号EO3017jを参照してください。

注: 装置に付いている定格ラベルは、その装置のクラス (AまたはB) を示します。クラスB装置の場合は、ラベルにVCCIロゴが表示されています。クラスA装置の場合は、VCCIロゴが表示されていません。装置のクラスを確認したら、UPSのユーザ ガイドの「規定に関するご注意」の項をお読みください。

重量



警告: 完全に組み立てられた場合のUPSの重量は15.6kgです。けがや装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

15.6kg
34.5lb

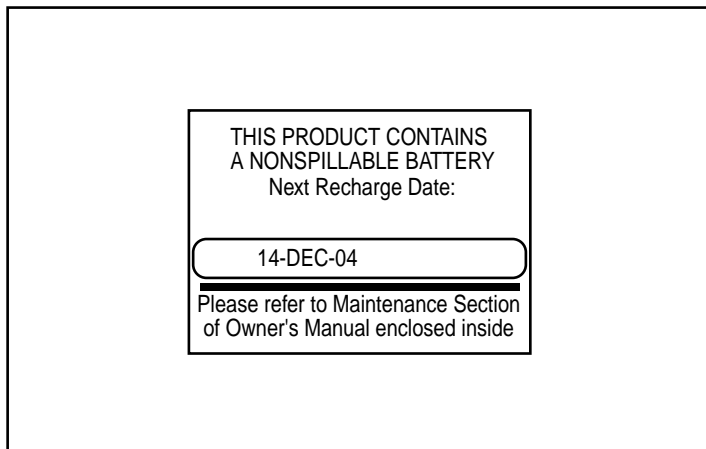
- 各地域で定められた重量のある装置の安全な取り扱いに関する規定に従ってください。
- UPSの設置および取り外し作業中には、必ず適切な人数でUPSを持ち上げたり固定する作業を補助してください。

バッテリー再充電日付をチェックする

UPSを開梱する前に、UPS梱包箱のバッテリー再充電日付ラベルに示されたバッテリー再充電日付をチェックしてください。このラベルは、梱包箱に貼付されています。

重要: 再充電日付を過ぎている場合は、バッテリーを使用しないでください。バッテリーを再充電せずにバッテリー再充電日付ラベルに示されている日付を過ぎた場合は、HPのサービス窓口にご連絡ください。北米以外の地域では、最寄りのHPテクニカル電話サポートセンターにご連絡ください。各国のテクニカルサポートセンターの電話番号については、hpのWebサイト<http://www.hp.com/>（英語）を参照してください。

注: 次のラベルに示された日付は例に過ぎません。梱包箱のラベルに示された日付は、これと異なる場合があります。



キットの内容

マニュアル

- 『規定に関するご注意』ガイド
- 『安全に使用していただくために』ガイド
- パワー プロダクト ドキュメンテーションCD
- Rack and Power Management Pack CD
- 『HP Uninterruptible Power System T1000 XR JPN Model User Guide』
- 本書

UPS

- 本体

ケーブル

- UPSには、NEMA5-15プラグ付きの取り外しできない1.83m（6フィート）の入力電源コードと、1.83m（6フィート）のUPS/コンピュータ インタフェース ケーブル（製品番号 201092-001）が同梱されています。

注: コンピュータ インタフェース ケーブルは通常の操作では必要ありません。UPSをパワー マネジメント ソフトウェアによって管理する場合は、インタフェース ケーブルをUPSの通信ポートとホスト コンピュータのシリアルポートに接続してください。

電気要件

5-15電源コードは、ユニットに同梱されています。このユニットは低電圧ユニットであり、これ以上の電源要件はありません。



警告: 火災や感電を防止するために、UPSは、温度と湿度が制御された、屋内の、ほこりなどによる導電性の汚染のない環境にインストールしてください。

UPSを開梱する

安全のため適切なガイドラインに従って、キットの内容を箱から慎重に取り出してください。すべてのコンポーネントが揃っていることを確認してください。

UPSの組み立てを完了する

重要: 組み立てが完了するまでは、UPSの電源を入れないでください。

通信ポートに接続する

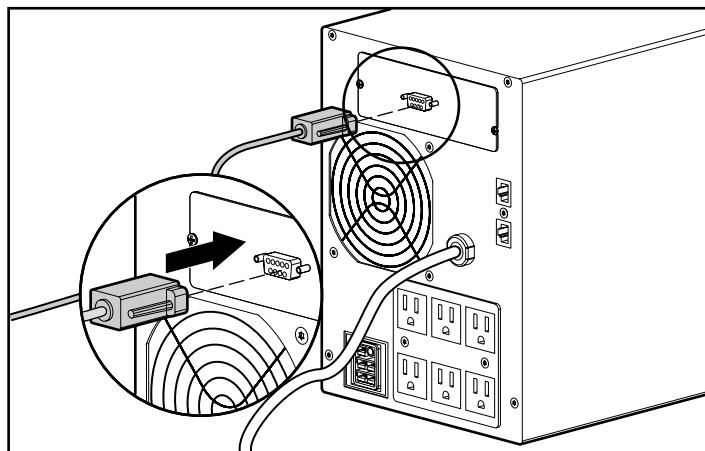
UPSには、UPSがホスト コンピュータとデータを交換するための通信ポートが装備されています。

重要: パワー マネジメント ソフトウェアでは、通信ポートをホスト コンピュータに正しく接続する必要があります。

UPS/コンピュータ インタフェース ケーブル（同梱）を、UPSの通信ポートから、ホスト コンピュータの適切な通信ポートに接続してください。



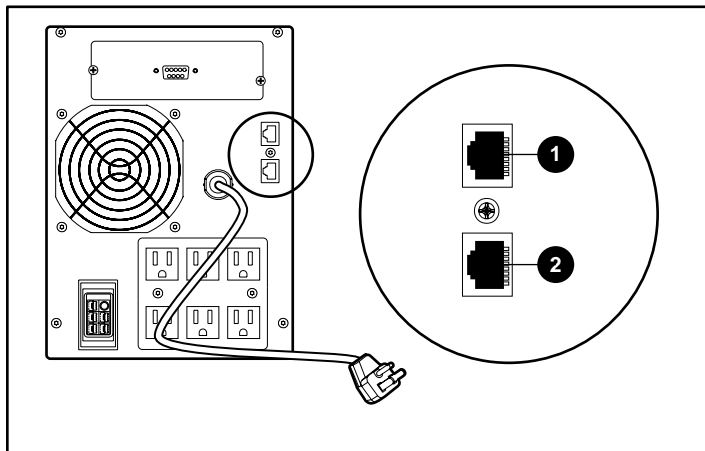
注意: 通信ポートとホスト コンピュータの接続には、UPSに同梱されている指定されたケーブルのみを使用してください。



サージプロテクタに接続する

サージプロテクタによりUPSは通信装置をサージから保護できます。

重要: 装置の損傷を防止するために、サージプロテクタに電話回線を接続する場合は、デジタルPBX回線ではなく、標準の電話回線を接続してください。



参照番号 説明

- | | |
|---|-------------------|
| 1 | サージプロテクタ"OUT"ジャック |
| 2 | サージプロテクタ"IN"ジャック |

UPSを商用電源に接続する

UPSをアース付きの商用電源コンセントに接続してください。

警告: 感電や装置の損傷を防止するために、次の点に注意してください。

- 入力電源コードは、装置の近くに設置された、容易にアクセスできるアース付き電源コンセントに差し込んでください。
- 入力電源コードのアース付きプラグは無効にしないでください。アース付きプラグは安全上重要な機能です。
- 延長コードを使用しないでください。

装置をUPSに接続する

装置を接続する前に、装置の定格がUPSの容量を超えないことを確認して、UPSが過負荷にならないことを確認してください。すべてのロードセグメント間で、接続する装置を均等に分散してください。

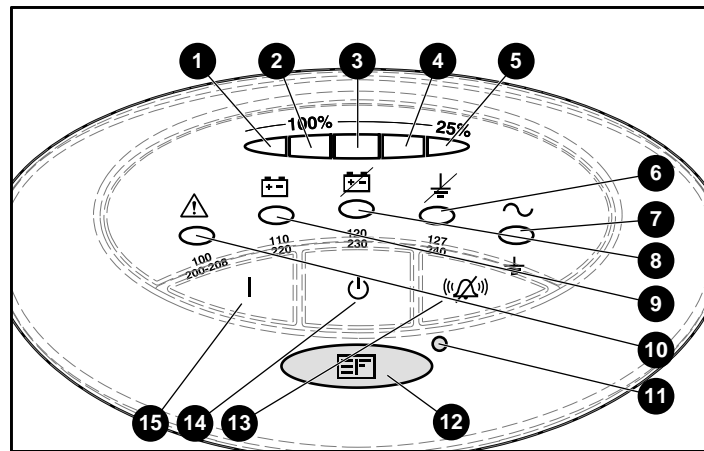
UPSが過負荷にならないことを確認した後は、装置の電源コードを、UPSの適切な出力ソケットに接続してください。

注意: レーザプリンタはUPSに接続しないでください。このタイプのプリンタには瞬間的に大きな電流が流れるため、UPSが過負荷になる場合があります。

UPSの電源を投入する

UPSの電源を投入するには、以下の手順に従ってください。

- 入力電源コードを使用して、UPSを商用電源に接続します。UPSは、自動的にセルフテストを開始します。セルフテストが正常に完了すると、UPSはスタンバイモードになります。
- フロントパネルのLEDディスプレイをチェックします。商用電源LEDは、緑で点滅しますが、電源はロードセグメントに供給されません。



1	過負荷LED	9	バッテリー動作LED
2	76 ~ 100%負荷	10	一般アラームLED
3	51 ~ 75%負荷	11	設定モード オンLED
4	26 ~ 50%負荷	12	設定ボタン
5	0 ~ 25%負荷	13	テスト/アラーム リセットボタン
6	配線チェック インジケータ	14	スタンバイ ボタン
7	商用電源LED	15	オン ボタン
8	不良バッテリー/ロー バッテリー LED		

注: 設定モード オンLEDおよび設定ボタンは、フロントベゼルを取り外してアクセスしてください。

- 商用電源LED (7)
 - 赤で点滅: 商用電源の入力電圧が、設定されている+20% ~ -30%の定格範囲を超えています。
 - 緑色: 商用電源の電圧が供給され、出力がオンになっています。または商用電源の電圧が設定されている電圧範囲に戻りました (UPSは商用電力を供給しておりアラーム音はリセットされているはずです)。
 - 緑色で点滅: 商用電源の電圧が供給され、出力がオフになっています。UPSはスタンバイモードになっています。必要に応じて、バッテリーが充電されます。
- 過負荷LED (1): 赤色 - UPSの負荷が使用できる最大電力を超えています。
- 76 ~ 100%負荷LED (2): 緑色 - UPSの負荷は、概算で最大電力の76 ~ 100%の間にあります。
- 51 ~ 75%負荷LED (3): 緑色 - UPSの負荷は、概算で最大電力の51 ~ 75%の間にあります。
- 26 ~ 50%負荷LED (4): 緑色 - UPSの負荷は、概算で最大電力の26 ~ 50%の間にあります。
- 0 ~ 25%負荷LED (5): 緑色 - UPSの負荷は、概算で最大電力の0 ~ 25%の間にあります。

フロントパネルLEDディスプレイおよびUPSに関するその他の情報については、UPSのユーザガイドを参照してください。

重要: フロント パネルのいずれかのLEDが赤になっている場合（アラーム条件を表しています）は、テスト/アラーム リセット ボタンを押して、赤のLEDを消してください。それでも赤のLEDが消えない場合、UPSのユーザガイドで詳細を確認してください。

バッテリーを充電する

UPSの使用を開始する前に、UPSをスタンバイ モードにしてバッテリーを充電してください。

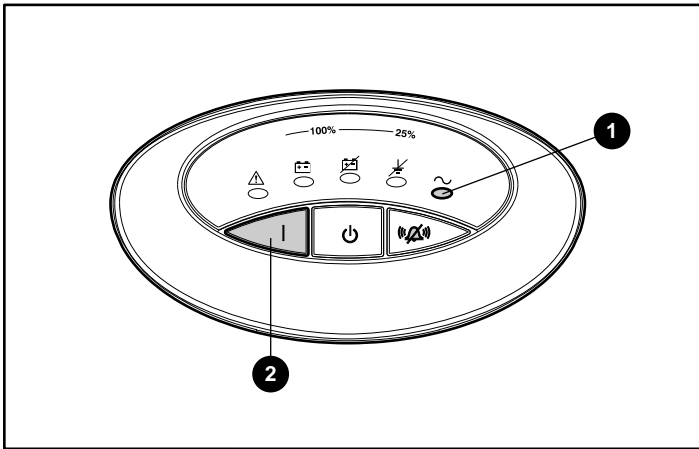
重要: バッテリー パックの充電時間は次のとおりです。

- 3時間以内に容量の90%
- 24時間以内に容量の100%

装置にバックアップ電源を供給する前に、最低24時間充電してください。

UPSを動作モードにする

オン ボタン（2）を押し続けます。商用電源LED（1）が緑で点灯し、UPSの出力ソケットで電源を使用できることを示します。UPSは、短いピープ音で認識したことを知らせます。



システムを停止する

システムを停止するには、以下の手順に従ってください。

1. すべての負荷装置を停止します。
2. スタンバイ ボタンを押して、UPSの動作モードを解除します。負荷ソケットへの電源が切断されます。
3. UPSを商用電源から切断します。
4. UPSの内部回路が放電するまで60秒以上待ちます。

詳細については、HPのWebサイト<http://www.hp.com/products/ups/>（英語）を参照してください。